

報告事項ク

平成25年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

平成25年度鳥取県教育研究大会の開催概要について、別紙のとおり報告します。

平成25年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

小中学校課・特別支援教育課・高等学校課

1 趣旨

県教育委員会では、全ての校種において、学ぶ力や、豊かな人間性と社会性の育成を図るため、各学校の取組への支援を進めている。

本研究大会は、こうした取組報告や学校での研究内容等の発表、また、これから子どもたちの「学び」や学校の授業はどう変わっていくのかについて、事例の紹介を交えながら専門家による講演等を行い、児童生徒の学びの質を高め、人間性や社会性を豊かに育む学校づくりの推進を図る。

2 概要

(1) 日時 平成25年12月12日(木)
午前10時から午後4時40分まで

(2) 会場 鳥取県立倉吉未来中心小ホール他

(3) 参加者数 325名

(4) 内容

①講演 『「わかった!」の先に続く学びを求めて』
講師 東京大学大学総合教育研究センター
教授 三宅 なほみ 氏

②分科会Ⅰ～スクラム教育 各タワーの実践発表～(概要別紙資料)

岩美タワー、八頭タワー、倉吉タワー、伯耆タワー、境港タワー、日南タワー

指導助言者 文部科学省初等中等教育局教科調査官 澤井 陽介 氏

③分科会Ⅱ～授業改革～(概要別紙資料)

聖心幼稚園、若桜学園、久米中学校、名和中学校、鳥取豊学校、米子東高校

指導助言者 小中学校課係長、各教育局係長、特別支援教育課指導主事、高等学校課指導主事



3 成果(アンケートによる)

○参加者は、知識構成型ジグソー法という新しい言葉に触れ、人間が本来持っている認知機能とそれを引き出す指導方法に興味を示すとともに、実践研究に取り組みたいという意欲の高まりが見てとれた。

○スクラム教育では、それぞれのタワーが、児童生徒の学びの質を高め、人間性や社会性を豊かに育む学校づくりに向けて大きな成果を積み上げており、参加者は取組の有用性について理解を深めるとともに、校種間連携の可能性を再確認できた。

○校種の連携は、お互いを理解し学びあうことで成立すること、子どもたちの学びや成長など様々な可能性を生む取組であることを広く共通理解できた。

○幼稚園、小・中学校・特別支援学校、高等学校で取り組まれた「学びの質の向上」を図る授業づくりをとおして、本県の目指す「学びの質の向上」が、いずれの校種においても追求していくべき本質的なテーマであることが再確認できた。

<参考>参加者の感想(アンケート)

・子どもは自分の考えを持ちたがっているという前提で、授業をはじめとする学校での取組を見直すと、協調学習的な手法は様々な場面で活用できると思った。

・発表を聞いて元気が出た。夢を失わず教師の本気の力を出して授業改革に取り組みたいと思った。明日からのエネルギーが湧きました。

・幅広い校種の取組を見ることができ、とても参考になった。小学校のことだけを考えるのではなく、幼、保、小、中、高と連携した教育は教師の意識次第で実現していけると感じた。

・全ての取組が「子どもを主体者」とするものであることが良く分かった。自分の授業改革も含め、子どもがより主体者となるような授業づくりをしていく必要性を感じた。

1 スクラム教育の取組実践報告 (各校 15 分、質疑応答 5 分)

岩美タワー 岩美西小・岩美中	「みんなが成長を実感できる連携教育」 ～保小中高の連携でめざす 30 歳の人間像～
八頭タワー 中央中・八頭高	「いきいきやづっこを育む」中高を中心とした連携の在り方 ～表現力の育成をめざした授業力の向上～
倉吉タワー 東中・倉吉東高	「英語、数学などの学力向上を目指した中高連携教育の推進」 ～高い志を持ち、夢と希望に向かってチャレンジする生徒の育成～
伯耆タワー 岸本小・八郷小・岸本中	「目指す人間像を共有した小中一貫授業改革の取組」
境港タワー 境小・第一中・境高	「子どもの自立を支える一貫性のある教育の実現をめざして」 ～確かな学力の向上と豊かな人間性・社会性の育成～
日南タワー 日南小・日南中	「関わり合いを通して、生き抜く力を身につける子どもの育成」 ～保小中が一貫して行う、自己効力を高める取組を通して～

2 取組の概要と成果

	取組の概要	成果
岩美タワー 岩美西小・岩美中	<ul style="list-style-type: none"> 未来の子ども像・音読、計算 漢字検定、計算検定・学習規律 校種間の出前授業等 	<ul style="list-style-type: none"> 脳科学の知見で計算検定力向上 NO TV DAY の継続 スクラム効果を感じる教員の増加等
八頭タワー 中央中・八頭高	<ul style="list-style-type: none"> 目指す生徒像・表現力の育成 小高スポーツテスト・勉強教室 中高交流授業等 	<ul style="list-style-type: none"> 中→進路意識や学習意欲の向上 高→自己肯定感やコミュニケーション能力の向上等
倉吉タワー 東中・倉吉東高	<ul style="list-style-type: none"> 中学への乗り入れ授業 (英、数) 生徒交流 (ボランティア等) 教育 (指導) 方法の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 高一ギャップの解消 6 年間の発達段階を見通した学習指導等
伯耆タワー 岸本小・八郷小 岸本中	<ul style="list-style-type: none"> 勉強がよく分かる生徒の増加 学習規律の向上 教師の連携に関する意識向上等 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強がよく分かる生徒の増加・学習規律の向上 教師の連携に関する意識の向上等
境港タワー 境小・第一中・境高	<ul style="list-style-type: none"> 学び方 9 年プラン 英語、理科 (乗り入れ授業 小→小、中→小、高→中) 中高英語多読 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校進学への期待増加・中 1 ギャップの解消 高→英語の意欲関心向上等
日南タワー 日南小・日南中	<ul style="list-style-type: none"> 小中 (知識構成型ジグソー法) 小中合同部会 (学習、仲間、健康) 保小連携 	<ul style="list-style-type: none"> 中 1 ギャップの解消 学校不適応の減少・全教職員による授業づくり等

3 総括

指導助言

文部科学省初等中等教育局教科調査官 澤井 陽介 氏

(1) 鳥取県のスクラムの特徴

- 拙速に結果を求めず長い目で考えた取組
- 試行錯誤しながら、継続できるものに絞り込んでいる
- 子どもの姿勢から成果を見ようとしている

(2) 鳥取県のスクラムの成果

- 幼から高までスクラムとしての一体感が生まれている
- 子どもの成長を長い目で見る体制が作れた
- 間違いなく授業改善が進んだ



1 授業改革の取組事例発表（各校発表 15 分、質疑応答・指導講評 15 分）

1 幼稚園の取組事例発表 「充実した遊びを通して、自ら考える力を育む」 ～子どもの心の動きに寄り添う教師を目指して～	境港市 聖心幼稚園
2 中学校区の取組事例発表 ①「9年間を見通した豊かな学びの創造」 ～自分の思いや考えを表現しようとする児童生徒の育成～ ②「小中で確かな学力を育む取り組み」 ～子どもが関わる 教師も関わる 進化する久米中校区～ ③「伝え合う力を伸ばす授業づくりに向けて」 ～子ども・教師・保護者が変わる小・中連携をめざして～	若桜町立若桜学園 倉吉市立久米中学校 大山町 名和中学校区
3 特別支援学校の取組事例発表 「確かな学力の定着を目指して～ことばやかず、国語、算数・数学科における実践～」	鳥取聾学校
4 高等学校の取組事例発表 「『CAN-DOリスト』」の形で学習到達目標に基づいた英語授業の改善」	米子東高等学校

2 取組の概要

	取組の概要	成果
聖心幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える力」の育成に重点を置き、めざす子どもの姿を確認 ・『考える力』の発達の道筋」の明確化 ・保育の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・満足感や達成感を味わう遊び ・遊びこめる環境の再構成 ・充実した保育
若桜学園	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学び合い伝え合う場を設定 ・支え合い、認め合う人間関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から9年生まで「若桜学園学びのスタイル」に沿った授業
久米中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区小中連絡会議の活用 ・授業改善の重点の共有と数値目標の設定 ・学びの実態把握と指導上の工夫の共有 ・合同の研修会、授業研究会、研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子どもの具体像の地域発信及び全教員での共通の目標化 ・授業改善への教師の意識の高まり ・学びに対する生徒の意識変化
名和中学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織設立 ・学び合いを大切にした授業改革・教師集団の学び合い・自己肯定感を高め、学習意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スタイルの共有で児童生徒や教職員の意識が変化 ・家庭学習、基本的な生活習慣について周知→保護者の意識変容
鳥取聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な実態把握・「授業の工夫、配慮事項」の作成と活用・授業展開の工夫 ・幼児児童生徒のつまずきの抽出と検討 ・参観ウイークの活用と授業研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が同一の視点→生徒が主体的に学習に取り組む意欲や態度の育成
米子東高校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標の設定と指導と評価への反映(CAN-DOリストの作成 生徒用、教師用) ・授業及び評価の改善について(指導形態の変化、使用言語の変化、スピーチテスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が話す、書くに積極的に取り組み、表現することを楽しむ ・授業中に集中する生徒が増加

3 総括

指導助言 各担当指導係長、担当指導主事

○各校種で研究組織や授業づくりを進め効果が表れている。
評価指標を明確にしさらに授業改革をすすめることで、学びの質の向上は進んでいく。

